

教育に関する事務の管理及び執行の
状況の点検、評価報告書

令和 5 年度事業の評価結果

令和 7 年 3 月 19 日

安芸太田町教育委員会

目 次

はじめに	1 頁
1 企画政策費	
（1）加計高校を育てる会支援事業	3 頁
2 児童福祉費	
（1）子ども・子育て支援事業	4 頁
（2）子育て支援センター運営事業	5 頁
（3）児童センター運営事業	6 頁
（4）児童福祉施設事業（評価無し）	7 頁
（5）保育所（園）管理事業	7 頁
3 教育総務費	
・学校の概要及び教育施策（評価無し）	10 頁
（1）教育委員会運営事業（評価無し）	12 頁
（2）教育委員会事務局運営事業	13 頁
（3）奨学金貸付基金運営事業	16 頁
（4）連携教育推進事業	17 頁
4 小・中学校費	
（1）小・中学校管理事業	19 頁
5 教育振興費	
（1）小学校教育振興事業・中学校教育振興事業	21 頁
（2）小学校就学援助事業・中学校就学援助事業	23 頁
6 社会教育費	
（1）社会教育総務管理事業	24 頁
（2）社会教育施設管理事業（評価無し）	25 頁
（3）文化財保護管理事業	26 頁
（4）生涯学習推進事業	26 頁
（5）図書館運営事業	33 頁
（6）放課後子ども教室推進事業	35 頁
7 保健体育費	
（1）保健体育総務管理事業	36 頁
（2）体育施設管理事業（評価無し）	37 頁
（3）社会体育振興事業	39 頁
8 共同調理場費	
（1）加計共同調理場運営事業・筒賀共同調理場運営事業	40 頁

はじめに

1 趣 旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正により、教育委員会は毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに公表しなければならないこととされています。

安芸太田町教育委員会では、事務・事業の点検を行い、教育行政サービスの質の向上と効率化の実現、コスト削減を進めるために、評価し、仕事の再点検・再確認を行うとともに、厳しい財政状況における効果的な町民サービスを実現させ、効率的な教育行政の推進に資するよう努めます。

2 安芸太田町教育委員会点検・評価の方法

評価は各事業等について、行政内部による評価を行います。

その後、社会教育委員会議（外部委員）に諮り、議会への提出、ホームページで公表します。

また、公表により町民の皆さんからいただく意見、要望も参考にし、今後の事業計画に反映していきます。以上の工程を毎年繰り返すことで、事業の改善を進めよりよい教育行政の運営に努めます。

3 実施の方法

◎ 評価について

（１）評価の対象とする事業

事業評価をする項目は、安芸太田町主要施策の成果に関する調書をベースに評価します。ただし、予算のほとんどが事務費や管理費である場合は、評価しません。評価する年度で終了・廃止となる事業についても、すべて評価対象となります。

（２）事業評価における評価者（記入者）

事業評価は事業予算担当者が評価者となります。

（３）事業の評価

ア 必要性

現在の町民ニーズや社会経済情勢に照らして、事業の必要性があるかどうか、状況の変化に対応しているかどうかを評価します。

イ 有効性

施策や運営方針、町で策定した長期総合計画の目的の実現にどの程度寄与しているかを評価します。

ウ 経済・効率性

事業のコストがかかりすぎていないか、最小の経費で最大の効果を発揮しているか、無駄がないかなど、経済性の面から評価します。

また、事務状況进行评估し、併せて目標の設定水準が適切かどうかとも検討します。

エ 評価

事業の各評価項目を勘案し、外部評価委員の評価と意見の聞き取りを行います。

～ 評価のランク ～

A	優れた取組が多く、十分成果が上がっている
B	優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている
C	成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い
D	成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要

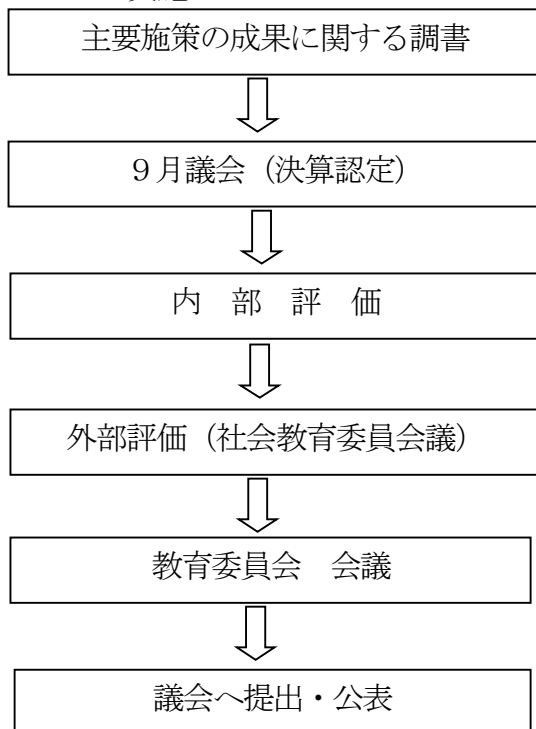
(4) 事業の方向性

上記の評価結果を踏まえて、今後どのように事業を進めるかを選択します。

(5) 評価結果の公表

公表に際しては、議会へ提出し町ホームページに掲載します。

～ 実施フロー ～



教育課

1. 企画政策費

(1) 加計高校を育てる会支援事業

① 事業の目的

本町唯一の高等学校である県立加計高等学校の特色ある教育の推進と県立高等学校再編整備基本計画における統廃合対象校である加計高等学校の存続を目指し、それに要する経費に対し補助金を交付する。

② 事業の成果と課題

加計高等学校の寮として安芸太田町人材育成・交流センター（愛称：黎明館、居室 60 室）の運用を令和 4 年 3 月から開始し、48 人の寮生が利用している。

加計高等学校の魅力化を進めていくため、地域と連携を深めていき、地域からも親しまれる拠点として機能させていく必要がある。

昨年度に引き続き、ローカルビジネス創出コーディネート配置事業を実施し、生徒のニーズをもとに高校で行う総合的な探究の時間において課題解決に向けてのプロジェクトを企画し、実践した。栄養成分のイヌリン効果による血糖値の上昇を抑制し、整腸作用にも効果がある菊芋をパウダー化した商品をイベント等で販売するとともに、販売課題整理を行った。また、ekie 広島駅での職場体験、現地調査を行い、外国人観光客に対する接客やPOP作成を行った。

地元の中学校を対象としたオープンスクールや進路講演、進路面接指導を行うなど中学校と連携した活動を行い、中高連携を深めた。

また、平成 28 年度から引き続き、中高一貫教育に伴う連携枠として地元出身生徒の確保や町外からの生徒確保のため、「地域みらい留学」プロジェクトに参加し、オンラインによる全国公募に努めた。

進路対策講座の一環として行っている「公営塾」は、会場を川・森・文化・交流センターとし、土日及び学校の振替休日を利用して開催し、延べ 652 人が参加した。

加計高校生徒数（令和 5 年 5 月現在、単位：人）

1 年生	2 年生	3 年生	合計
40	38	27	105

加計高校を育てる会への補助金内訳

事業名	金額[円]	内容
総合教育支援	6,950,000	進路対策講座、探究時間学習支援、部活動支援 中高連携支援、国際交流支援事業
広報活動支援	3,050,000	地域みらい留学支援（県外生徒募集）、学校広報 活動費用
合計	10,000,000	

区分	金額[円]	内容
報酬、旅費	3,570,304	公営塾講師3人
役務費	51,710	人材育成・交流センター火災保険料
委託料	25,522,000	人材育成・交流センター指定管理料
	2,997,500	ローカルビジネス創出コーディネーター業務
	253,000	人材育成・交流センター廊下間仕切り業務
備品購入費	578,400	人材育成・交流センター洗濯機・乾燥機4式

③ 歳出決算額 42,972,914 円

◆評価

事業の 評 価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか）			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			
	☒ 十分寄与する	☐ 概ね寄与する	☐ あまり寄与していない	☐ できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
	目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
備 考				
外部評価	A	評価委員意見	広報活動に力を入れてくださり、町外からの入学希望者も多い。町内の生徒数が減少する中で学校の魅力づくりは重要です。	
事業の 方向性	☐ さらに重点化する ☒ 現状のまま継続する ☐ 見直しのうえ、継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 単年度で終了			

2. 児童福祉費

(1) 子ども・子育て支援事業

① 事業の目的・内容

次代の安芸太田町を担う子どもの健やかな成長のために、「第2期安芸太田町子ども・子育て支援事業計画」（令和2年度～令和6年度）を策定している。

② 事業の成果と課題

「森のようちえん」構想実現に向け、龍頭峡など地域の豊かな自然資源を活用した保育を実現するため、園外での自然体験を各園所で実施した。

第3期安芸太田町子ども・子育て支援事業計画（令和7年度～令和11年度）策定に向け、第2期事業計画の評価、保護者を対象としたニーズ調査・分析を行った。今後の過疎・少子化に対応した子育て支援策を検討するため、第3期事業計画の骨子・素案を作成し、子ども・子育て会議などで協議・意見交換を踏まえ、計画・策定に取り組んでいきます。

③ 歳出決算額 1,684,601 円

◆評価

事業の 評 価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか）			
	☒ 増加	☐ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			
	☐ 十分寄与する	☒ 概ね寄与する	☐ あまり寄与していない	☐ できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
	目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
備 考				
外部評価	B	評価委員意見	従来の園外での活動とどのように内容が異なり効果的なのか十分整理をし、実践を深めてほしいです。	
事業の 方向性	☐ さらに重点化する ☒ 現状のまま継続する ☐ 見直しのうえ、継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 単年度で終了			

（２）子育て支援センター運営事業

① 事業の目的・内容

加計認定こども園あさひ、認定こども園とごうち内にある子育て支援センターを拠点として地域の子育て家庭に対する育児支援を行う。

② 事業の成果と課題

少子化の影響で利用者は減少傾向にあるが、支援センターを利用することにより、保育所やこども園の様子を知る機会となっている。保健師などの協力により、相談、支援業務も充実してきている。また、保護者のコミュニティの形成にも寄与しており支援センター事業の必要性は高い。

今後も出生数の減少、保育所・こども園入園（所）者の低年齢化により、今後の利用者減少は避けられない現状であるが、子育て環境が大きく変化する中で、子育てに不安を感じる保護者等の不安を解消する場として、子育て支援センター事業を継続していく。

利用状況は下表のとおりである。

施 設 名	利用人数	開設日数	平均利用者数
加計のびのび 子育て支援センター	延べ 532 人	220 日	保護者 1.2 人/日 子ども 1.2 人/日
戸河内 子育て支援センター	延べ 187 人	223 日	保護者 0.4 人/日 子ども 0.4 人/日

③ 歳出決算額 11,163,865 円

◆評価

事業の 評 価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか）			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			
	☒ 十分寄与する	☐ 概ね寄与する	☐ あまり寄与していない	☐ できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト削減しているか）			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
	目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
備 考				
外部評価	B	評価委員意見	出生数が激減しているからこそ、安心して子育てができる場、保護者の子育てによりそってくれる温かい場として今後も期待します。未就学児の時期の関わり方がその後の安芸太田の子どもの基盤を支えています。	
事業の 方向性	☐ さらに重点化する ☒ 現状のまま継続する ☐ 見直しのうえ、継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 単年度で終了			

（３）児童センター運営事業

① 事業の目的・内容

筒賀児童センターは地域の児童館としての機能を有し、放課後児童クラブを併設している。筒賀児童センター及び加計放課後児童クラブは学校の放課後、長期休業中において、児童に生活の場を提供し、指導員の保護や支援のもとで、児童の健全育成を図るとともに、保護者の就労と子育ての両立を支援している。

② 事業の成果と課題

児童センター事業として、行事計画を立て、自然を活用しながらの創作活動や体験活動など多彩な行事を展開し、健康かつ情操豊かな児童の育成を図った。また、青年海外協力協会(JOCA)の方や文教大学の学生等との交流を行った。

前年度に比べ筒賀放課後児童クラブの延べ利用人数は377人減の5,655人、加計放課後児童クラブの延べ利用人数は695人増の6,472人となった。

労働等で日中に保護者がいない世帯が増加し、放課後児童クラブ利用の要望は多くあり、支援が必要な児童利用対応への指導、育成を踏まえ、指導員の確保・充実に努めていく必要がある。

利用状況

事業名	利用人数	利用日数	平均利用者数
筒賀児童センター	延べ 5,655 人	271 日	20.9 人/日

加計放課後児童クラブ	延べ 6,472 人	277 日	23.4 人/日
------------	------------	-------	----------

ア 放課後児童クラブ利用料状況 (単位：円)

利用児童数	収入金額 [円]	未収入金額 [円]
112 人	1,086,600	0

③ 歳出決算額 20,080,794 円

◆評価

事業の 評 価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか）			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			
	☒ 十分寄与する	☐ 概ね寄与する	☐ あまり寄与していない	☐ できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
	目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
備 考				
外部評価	B	評価委員意見	児童一人一人の特性に合わせた対応ができるよう、指導員の確保・充実にいっそう努めてほしいです。	
事業の 方向性	☐ さらに重点化する ☒ 現状のまま継続する ☐ 見直しのうえ、継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 単年度で終了			

(4) 児童福祉施設事業

① 事業の目的・内容

認定こども園、保育所及び児童厚生施設等の管理を適切に行うとともに、国及び県の交付金事業に係る償還事務を行った。

② 事業の成果と課題

令和4年度子どものための教育・保育給付交付金及び子ども・子育て支援交付金事業の実績に基づき、交付金の返還を行った。引き続き、適切に事務処理を行っていく。

③ 歳出決算額 78,008 円

(5) 保育所（園）管理事業

① 事業の目的・内容

就学前の子どもに教育、保育等の総合的な提供を行うために乳幼児を保育する。

町内2認定こども園、1認可保育所及び1小規模保育事業所で保育を実施した。

令和元年10月から国の幼児教育無償化施策により、3歳以上児の保育料が無償化された。併せて町独自の施策として、これまでの第2子以降保育料無償化に加え、給食費につ

いても無償化を実施している。また、通園距離が定められた距離以上の保護者に対して通園費を補助している。

② 事業の成果と課題

小学校との連携を図り、相互参観、外部講師による研修を実施するなど、幼児教育から小学校教育への接続が円滑に進むよう取り組んでいる。

働きながら子育てをされる家庭の割合が多く、就労に影響が生じないように受け入れ態勢を整えていく。

③ 歳出決算額 74,730,135 円

入所児童数

(令和6年3月末現在)

保育所・こども園名	定員	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計	充足率
加計認定こども園あさひ	60	0	3	5	7	9	11	35	58.3%
修道保育所	20	0	0	0	2	2 (1)	2	6 (1)	30.0%
筒賀保育所	19	0	1	3 (1)	2	0	5	11 (1)	57.9%
認定こども園とごうち	60	1	7	5	4	14	13	44	73.3%
合計	159	1	11	13 (1)	15	25 (1)	31	96 (2)	60.4%

() 内広域入所受託児童数

④ 収納状況

現年度保育料

保育所(園)・こども園名	調定金額[円]	収入金額[円]	未収入金額[円]
加計認定こども園あさひ	1,452,300	1,452,300	0
修道保育所	0	0	0
筒賀保育所	444,600	444,600	0
認定こども園とごうち	1,425,400	1,425,400	0
合 計	3,322,300	3,322,300	0

令和5年度 滞納繰越保育料

保育所(園)・こども園名	調定金額[円]	収入金額[円]	未収入金額[円]
—	0	0	0
合 計	0	0	0

一時保育料

保育所・こども園名	利用児童数(延べ)	収入金額[円]	未収入金額[円]
加計認定こども園あさひ	21	47,200	0

修道保育所	6	30,800	0
筒賀保育所	11	18,200	0
認定こども園とごうち	77	102,845	0
合 計	115	199,045	0

時間外保育料

保育所・こども園名	利用児童数（延べ）	収入金額[円]	未収入金額[円]
加計認定こども園あさひ	97	20,060	0
修道保育所	0	0	0
筒賀保育所	18	5,220	0
認定こども園とごうち	151	30,180	0
合 計	266	55,460	0

広域入所

受託市町名	受入児童数（延べ）	利用保育所・こども園	受託金額[円]
広島市	1	修道 1	1,463,760
廿日市市	1	筒賀 1	1,629,100
合 計	2		3,092,860

◆評価

事業の 評 価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか）			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			
	☒ 十分寄与する	☐ 概ね寄与する	☐ あまり寄与していない	☐ できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
	目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
備 考				
外部評価	B	評価委員意見	未就学期の大切な時期をきれいな環境で過ごせており、良い教育環境だと思います。子どもと共に保護者啓発も含め益々の充実に期待します。	
事業の 方向性	☐ さらに重点化する ☒ 現状のまま継続する ☐ 見直しのうえ、継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 単年度で終了			

3. 教育総務費

学校の概要及び教育施策

令和4年度以降上殿小学校は休校中であり、小学校3校、中学校2校で新学期を迎えた。

児童・生徒数については、小学校は、児童数208人で前年度と比べて8人減、中学校は、生徒数97人で前年度と比べて4人増であった。

広島県教育委員会の掲げる「遊び 学び 育つひろしまっ子！」推進プランによる「幼保小連携教育の推進」の委託事業を活用して令和元年度から令和4年度まで取組みを進めてきた。令和5年度も、その趣旨を引き継ぎ、園・所等の教員・保育士等と小学校教員が協働して「安芸太田町のめざす子ども像」に向けて作成した接続カリキュラムに基づき日々の活動を実施するとともに、保小合同研修や合同活動に取り組んだ。

本町が日本技術士会中国本部と提携して主催する「安芸太田町科学アカデミー（次世代科学者育成プログラム）」は11年目となり、年間で3回（8月、9月、10月）実施した。紙コップやゴム動力を利用したおもちゃの工作、望遠鏡の仕組みについての学習、ライトセーバーの作成を通した光の仕組みについての学習など、児童生徒が楽しく科学について学ぶ機会をもつことができた。日本技術士会中国本部からは、講師派遣等、多大なご協力をいただき、大変有意義な行事となった。開催後のアンケートでは、「楽しかった」「来年度も参加したい」等、肯定的な回答がほとんどであった。

子どもにこれからの社会に必要な対話による学ぶ力を培い、その学びを支える教員の指導力向上のため、一般社団法人 教育環境デザイン研究所が受託した文部科学省「学びにおける先端技術の効果的な活用に関する実証研究事業」に実証地域として参加し、これまで続けてきた協調学習に先端技術を導入することで、更に充実した取り組みとなるよう尽力し、全国から注目を集めた。

外国語活動については、JETプログラムにより招聘した外国語指導助手（ALT）2人と、外国語教育推進員を加えた3人の配置を活かし、町内の保育園所や小学校、中学校へ定期的に訪問し、各校種での外国語教育の充実を図っている。

GIGAスクール構想により導入した1人1台端末の本格運用から3年経過し、授業や家庭学習での端末のさらなる利活用や保護者との連絡ツールの導入など、各校でICT活用推進に取り組んだ。

小学6年と中学校3年生を対象とした「全国学力・学習状況調査」の結果は、次の通りである。

- ・生徒質問紙において「学ぶ意欲」の「主体的な学び」は、小学校・中学校ともに大変良好という結果がでた。また、「学ぶ意欲」の「対話的な学び」「深い学び」「ICT機器の活用」についても、中学校においてかなり大変良好な結果となった。さらに、「自尊感情」の「自尊感情・キャリア教育」「人や社会とのつながり」も、大変良好といえた。
- ・学力調査では、国語と英語においては、小学校・中学校とも全国平均をやや下回っているものの、ほぼ全国と同程度となっている。数学については、小学校・中学校ともに全国平均を下回っており、改善を要するといえる。総じていえば、学力向上の取り組みが必要であると考ええる。

学校別児童・生徒数及び教職員数（令和5年5月1日現在）

小学校

（単位：人）

	加計	筒賀	戸河内	合計
学級数	8(2)	7(1)	6	21(3)
1年生	19	6	6	31
2年生	17	6	11	34
3年生	18	7	12	37
4年生	21	10	10	41
5年生	15	11	5	31
6年生	16	8	10	34
計	106	48	54	216
学校長	1	1	1	3
教 頭	1	1	1	3
教 諭	12	7	6	25
養護教諭	1	1	1	3
事務職員	1	1	1	3
栄養教諭	0	1	0	1
計	16	12	10	38

※学級数の（ ）は、うち特別支援学級数。

※教職員数 教諭は、本務者の数。

中学校

（単位：人）

区 分	加 計	安芸太田	合 計
学級数	4(1)	4(1)	8(2)
1年生	16	18	34
2年生	10	18	28
3年生	21	14	35
計	47	50	97
学校長	1	1	2
教 頭	1	1	2
教 諭	10	11	21
養護教諭	1	1	2
事務職員	2	1	2
計	15	15	30

※学級数の（ ）は、特別支援学級数。

(1) 教育委員会運営事業

安芸太田町教育委員等

教育長：二見吉康

教育委員：清胤祐子・池野博文・河本千絵・小田純子

① 教育委員会議の開催状況 13回

日 時	主な協議事項	出席委員
4月17日	・「令和5年度 安芸太田町教育 21・もみじプラン」について ・令和5年度教育委員会事務局 教育課事務分掌について ・教育課程の適正な実施と管理について	4
5月18日	・令和5年度安芸太田町学校運営協議会委員の委嘱について ・こども家庭庁設置法の施行に伴う関係法律の整備に関する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例の制定について ・町内の園児・児童・生徒数について	4
6月19日	・安芸太田町筒賀児童センター運営委員会委員の委嘱について ・安芸太田町社会教育委員の委嘱について ・安芸太田町公民館運営審議会委員の委嘱について ・安芸太田町立図書館協議会委員の任命について	5
8月7日	・令和6年度使用小学校教科用図書の採択について ・教育委員園・所・学校訪問について ・「教育職員等による児童生徒性暴力等の防止等に関する法律」の一部改正について	5
8月28日	・著作教科書及び学校教育法附則第9条第1項の規定による教科用図書の採択について ・令和5年安芸太田町議会第5回定例会に提案する議案に対する意見の聴取について ・令和5年度全国学力学習状況調査について	4
9月20日	・令和5年度 安芸太田町教育支援委員の委嘱について ・安芸太田町立学校出勤簿管理要領の一部改正について ・教育大綱の改定について	5
10月16日	・安芸太田町学校給食共同調理場運営委員会委員の委嘱について ・安芸太田町教育委員会公印規則の一部改正について ・安芸太田町教育委員会事務局組織規則の一部改正について ・安芸太田町教育委員会決裁規程の一部改正について ・安芸太田町教育委員会懲戒処分等審査委員会設置要綱の一部改正について ・安芸太田町放課後こども教室運営委員会設置要綱の一部改正について	5
11月20日	・安芸太田町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部改正について ・令和5年安芸太田町議会臨時会・定例会に提案する議案に対する意見の聴取について	5
12月19日	・町内小中学校における諸問題の状況について	5

日 時	主な協議事項	出席委員
	・令和6年（令和5年度）安芸太田町二十歳を祝う会について	
1月18日	・令和4年度 教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価について ・町内中学生の高校卒業後の進路調査について ・令和5年度卒業証書授与式・令和6年度入学式の日程等について	5
2月16日	・安芸太田町附属機関の設置に関する条例の一部改正について ・安芸太田町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部改正について	4
3月6日	・服務規律の厳正確保について	5
3月12日	・安芸太田町教育委員会教職員住宅管理規則の一部を改正する規則について ・安芸太田町就学援助費支給事務取扱細則の一部を改正する訓令について ・安芸太田町就学援助費支給要綱の一部を改正する告示について ・安芸太田町部活動の地域移行・地域連携検討協議会設置運営要綱について ・県費教職員の任免その他の進退の内申について	5

- ② 学校訪問 10月16日（修道保育所、加計認定こども園あさひ、加計小学校、加計中学校）
10月23日（認定こども園とごうち、筒賀保育所、筒賀小学校、戸河内小学校、安芸太田中学校）

- ③ 歳出決算額 1,093,196 円

（2）教育委員会事務局運営事業

- ・ALT（外国語指導助手）活用事業

① 事業の目的・内容

ALTはJETプログラムによる2人と、外国語教育推進員の3人体制で全小中学校へ毎週（小学校週2回、中学校週2回）訪問し、児童・生徒の英語による実践的コミュニケーション能力の育成と国際理解を深めた。

また、町内各こども園や保育所へ訪問し、就学前教育の充実を図った。

② 事業の成果と課題

ALTは毎週各学校へ訪問し、授業の補助のみならず、休憩時間に児童生徒と触れ合うことで児童生徒の英語や外国の文化に触れる機会を持たすことができている。また、自国の文化を紹介するポスターを作成して学校に掲示するなど、興味や意欲を伸ばす取り組みができている。こども園、保育所へは週一回程度訪問し、幼児期から英語や海外の文化へ触れさせることができている。

また、工夫した教材づくりや、自国の文化や流行を紹介するポスター作りに熱心に取り組む、生徒の興味を引くことができている。

英語暗唱大会では、練習に参加し、発音やジェスチャーについてアドバイスをを行い、

【暗唱部門】1年生1位、2位 2年生3位 3年生1位【スピーチ部門】3年生 3位という成果を出すことができた。また、英語検定時にはインタビュー練習など積極的に協力し英語検定取得率の向上に尽力した。

第3学年の3級以上取得者の割合 (R2 61.3% R3 46.9% R4 54.8% R5 45.2%)

③ 歳出決算額 10,264,630 円

◆評価

事業の 評 価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか）			
	☒ 増加	☐ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			
	☒ 十分寄与する	☐ 概ね寄与する	☐ あまり寄与していない	☐ できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
	目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
備 考				
外部評価	A	評価委員意見	園所・小学校から中学校へと同じALTとの関わりの中で、安心して楽しく外国語や外国の文化に触れることができています。	
事業の 方向性	☐ さらに重点化する ☒ 現状のまま継続する ☐ 見直しのうえ、継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 単年度で終了			

・学校ICT整備事業

① 事業の目的・内容

ICTを用いた「学校での学び」や「家庭での新しい学び」の更なる推進について取り組んだ。また、データやデジタル技術の活用により、学校教育のあり方や教育手法の変革を行う教育DXを推進することとし、新たなシステムの整備に取り組んだ。

② 事業の成果と課題

教育ネットワークの統合と新しいセキュリティシステム、校務支援システム、AIドリル等の導入を行った。これらのシステムを利用することで教職員の業務改善を行い、児童生徒や保護者に向き合う時間を確保するとともに、教育データを活用した個別最適な学びの実現に向け、今後も取り組んでいく。

授業や家庭での端末利用やICT活用は日常的なものになってきているが、教員のリテラシーの差や学校間での差が出てきていることが課題である。ICT研修を行い実践交流やシステムの研修会を実施し、教職員のリテラシーの向上に努めていきたい。今後平成30年に先行導入した端末含め、児童生徒端末等の次期更改に向けて計画的な整備を進めていく必要がある。

③ 歳出決算額（学校 ICT 関連）

補助事業	補助事業対象総額 [円]	補助金額 (1/2) [円]
教育DX推進事業 (AI型ドリル、校務支援システム導入費)	63,169,297	31,584,648

区分	金額 [円]	備考
回線使用料	924,128	インターネット、プロバイダーほか
ライセンス使用料	522,720	マイクロソフトライセンス（導入分）
ソフトウェア使用料	107,800	ライフイズテック（技術科用）
システム保守	1,781,395	サーバー・ネットワーク保守
機器賃借料	3,525,390	サーバーリース料
委託料	53,904,345	システム導入 (AI 型ドリル、校務支援システム、保護者連絡システム) 児童生徒端末更新
備品購入費	15,922,720	校務端末、アクセスポイント
小計	76,687,498	学校 I C T整備費小計
ICT 支援員	7,788,000	各校巡回支援員
合計	84,476,498	学校 ICT 関連合計

*補助事業含む決算額合計

◆評価

事業の 評 価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか）			
	☒ 増加	☐ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			
	☒ 十分寄与する	☐ 概ね寄与する	☐ あまり寄与していない	☐ できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
	目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
備 考				
外部評価	B	評価委員意見	整備期から発展充実期へ教育のデジタル化が進むのはこれからだと思います。今後に向けて ICT 支援員の存在は大きく、教員との協働が望まれます。	
事業の 方向性	☐ さらに重点化する ☒ 現状のまま継続する ☐ 見直しのうえ、継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 単年度で終了			

(3) 奨学金貸付基金運営事業

① 事業の目的・内容

高等学校、専門学校及び大学に進学を希望するが、経済的な理由から修学が困難な者に対して奨学金を貸し付ける。

奨学基金会計の状況（令和5年4月1日～令和6年3月31日）

収支の状況

収入の部		支出の部	
費 目	金 額 [円]	費 目	金 額 [円]
返還金	7,007,100	貸付金	3,168,000
前年度繰越金	45,029,936	次年度へ繰越	48,886,224
寄附金	0		
利子	17,188		
計	52,054,224	計	52,054,224

貸付状況

区 分	貸付者数[人]			貸 付 額 [円]
	大・専	高	計	
5年度新規貸付	2	0	2	984,000
在学貸付中の者	4	1	5	2,184,000
計	6	1	7	3,168,000

奨学基金総額

区 分	金 額 [円]
貸 付 金	44,297,800
現 金	48,886,224
計	93,184,024

② 事業の成果と課題

進学希望者を経済的に支援することができたが、現在は収支バランスが保たれているが、今後希望者が急増すれば、基金の不足が予測される。

事業の目的をさらに多くの方に知っていただき、活用していただけるように広報等の周知方法を検討する必要がある。

③ 歳出決算額 32,296 円

◆評価

事業の 評 価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか）			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			
	☐ 十分寄与する	☒ 概ね寄与する	☐ あまり寄与していない	☐ できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない

	目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
備 考				
外部評価	B	評価委員意見	今後も積極的な周知と有効活用を望みます。	
事業の 方向性	☐ さらに重点化する ☒ 現状のまま継続する ☐ 見直しのうえ、継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 単年度で終了			

（４） 連携教育推進事業

・連携教育推進事業

① 事業の目的・内容

小学校又は中学校間及び中学校区ごとの小小連携や小中連携といった児童・生徒・教職員を含めた学校間の交流、教育振興を目的とする。

② 事業の成果と課題

本町で進める連携教育の目的達成のために社会見学、合宿といった合同教育活動への講師謝礼や児童生徒の移動等に予算を充て、より効率的な推進を図った。

小小連携である３校合同合宿を７月１２日から１４日の２泊３日で、江田島青少年の家で実施した。交流を通して協調性や連帯意識に基づくより良い人間関係を形成する力の育成や多様な体験活動を通して、困難な体験を克服してやり遂げることや粘り強くやり抜く態度を育てることの大切さに気付く取組となった。

中中連携である合同文化祭を１１月５日に戸河内ふれあいセンターで開催した。各校の特色を生かしたステージ発表を行った。参観した保護者から「それぞれの学校の特色が出ていました。生徒一人一人が互いに協力し合い、今日、この時を迎えてきたことがうかがえます。」などの感想があった。

保小中で個に応じた支援を切れ目なく継続して行うため、特別教育支援教育士による巡回相談を実施した。専門的な視点でアドバイスをもらい、児童生徒の個別の特性に応じた支援計画を立てることができた。

学習科学の専門家を講師として招聘し、各校で研究授業を実施した。授業の中での子どもの見取りや子供の思考の想定をもとにした授業づくりなど学習科学の視点に基づいた指導・助言をもらうことで、主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善や教職員の力量向上を図ることができた。

日本技術士会の協賛のもと、町内小中学生を対象とした科学アカデミー教室を実施した。１１回目となる令和５年度はのべ５９人が参加し、「紙コップやゴム動力を利用したおもちゃの工作」「望遠鏡の仕組みについての学習」「ライトセーバーの作成」をとおして、科学的なものづくりについて学んだ。事後のアンケートでは、「むずかしかったけど、完成したときは、とても達成感を味わえた。」「いろいろ良くないところはなおしたり、たすけ合ったりして楽しかった。」など肯定的な感想が多かった。

・新しい学びプロジェクト事業（先端技術導入実証研究事業）

① 事業の目的・内容

平成22年度から、子ども達の主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、研究者(CoREF)と全国の参加団体(教育委員会、学校ネットワーク等)が連携して授業研究を行っている新しい学びプロジェクトに参加し、知識構成型ジグソー法を用いた協同学習による授業改善の取組を目的とする。

また、この取組に関連して、一般社団法人教育環境デザイン研究所が受託した文部科学省「学びにおける先端技術の効果的な活用に関する実証研究事業」に実証地域として参加し、子どもの「主体的・対話的で深い学び」の実現のための児童生徒の学習過程の適切な見とりにも取り組む。

② 事業の成果と課題

全国の研究推進員やサポートメンバーとのメーリングリストでのやり取りをとおした授業づくりや先端技術を活用した授業記録、記録を活用した授業後の研修などに取り組んだ。また、全国の参加団体が集合して行う研修会にも複数の教員が参加し、授業検討等を行った。

研修会に参加することで、教員が新しい学びの方向性を知ることができた。また、研修での学びを活かし、各校で子どもの学びの事実に基づく授業デザインと振り返りのPDCAサイクルが回り始め、各校で自立した授業研究を行えるようになった。

教員対象に実施したアンケートによると子ども観や授業観に変容が見られ、授業づくりに対する意識にも変化が見られた。

③ 歳出決算額

事業名	金額[円]	備考
連携教育推進事業	1,316,966	
新しい学びプロジェクト事業 (先端技術導入実証研究事業)	626,680	(内) 191,480 円は教育委員会事務局費(旅費)
計	1,943,646	

◆評価

事業の 評 価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか)			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)			
	☒ 十分寄与する	☐ 概ね寄与する	☐ あまり寄与していない	☐ できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☒ できていない	☐ あまりできていない	☐ できていない
備 考				

外部評価	B	評価委員意見	小規模校で教員が少ない中、他校の教員と情報共有し、学び合う貴重な機会となっています。これからの時代に必要とされる教育の在り方を考える場となっています。
事業の方向性	☐ さらに重点化する ☒ 現状のまま継続する ☐ 見直しのうえ、継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 単年度で終了		

4. 小・中学校費

(1) 小・中学校管理事業

- スクールバス運行（使用料及び賃借料）

遠距離通学に係る小学校便を7路線、中学校便は5路線で運行し、児童生徒の安全な登下校を確保した。

小学校費

学校名	運行地域	金額 [円]	備考
加計小・加計中	修道・安野	9,938,720	小・中学生が一緒に登校
	坪野・津浪	6,888,288	
	殿賀	6,136,031	
	猪山	2,835,760	
戸河内小	小板・松原	385,860	小板・松原、寺領は下校タクシー分
	寺領	378,930	
	上殿	5,126,993	
合計		31,690,582	

中学校費

学校名	運行地域	金額 [円]	備考
加計中	修道・安野	2,127,191	中学校のみ利用及び週末部活便
	坪野・津浪	1,016,400	
	殿賀	968,015	
安芸太田中	寺領・土居・上殿	7,224,617	小・中学生が一緒に登校
	小板・松原・遊谷・上本郷	8,423,390	
合計		19,759,613	

(統合に伴う通学経費の補助金 上殿便 :国庫補助 1,430,000 円・県費補助 286,000 円)

- 小・中学校管理・運営事業

① 事業の目的・内容

児童生徒が安心・安全な教育活動を行うために、施設の保守・整備・修繕を行う。

② 事業の成果

ア 施設の修繕状況（修繕料）

小学校 314,050 円

加計小学校ガス感知器取替修繕業務 他

中学校 1,301,509 円

加計中学校給湯器修繕

加計中学校エレベーター修繕（繰越分） 他

イ 管理、点検等業務委託（委託料）

小学校 4,036,936 円

自家用電気工作物保安管理業務・消防用設備等保守点検業務

加計小学校植栽整備等業務・空調設備保守業務

筒賀小学校建築物・防火設備定期報告書作成業務

上殿小学校環境整備業務 他

中学校 2,073,270 円

自家用電気工作物保安管理業務・消防用設備等保守点検業務

加計中学校建築物・建築設備・防火設備定期報告書作成業務 他

ウ 工事請負費

小学校 1,298,000 円

筒賀小学校照明LED化工事

中学校 56,401,400 円

加計中学校空調設備改修工事費（国庫補助 10,814,000 円）

安芸太田中学校体育館便所給水管修繕工事

教職員住宅 3,245,000 円

筒賀住宅解体工事

◆評価

事業の 評 価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか）			
	☒ 増加	☐ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			
	☒ 十分寄与する	☐ 概ね寄与する	☐ あまり寄与していない	☐ できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
	目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
備 考				
外部評価	B	評価委員意見	学校管理・運営に必要な経費は必要に応じた予算措置を今後も行っていきたいです。	
事業の 方向性	☐ さらに重点化する ☒ 現状のまま継続する ☐ 見直しのうえ、継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 単年度で終了			

5. 教育振興費

(1) 小学校教育振興事業・中学校教育振興事業

- 特色ある学校づくり推進事業補助金

- ① 事業の目的・内容

各学校が独自性のある学校づくり推進事業の展開が実施できるように活動費補助を行い、もみじプラン 21 を基本とした特色のある活動を推進した。

- ② 事業の成果と課題

特色ある学校づくり補助金による外部講師の招聘や地域の方の協力により、各学校とも学校長の経営方針に基づいた特色ある学校づくりに取り組んだ。

小学校費

学 校 名	金 額 [円]	事業テーマ
加計小学校	352,840	気づいて 考えて やってみる 児童を育成する加計小学校の創造 マーチングバンド指導講師代、バンドフェスティバル参加費用等)
筒賀小学校	166,910	ふるさとのよさに学び、豊かな感性と実践力を持つ児童の育成 (けん玉指導、ライフル教室、スキー教室等)
戸河内小学校	178,494	仲間・地域とつながり、学校の伝統を創り出す児童の育成 (合唱指導、和太鼓指導、スキー教室講師代等)
合 計(a)	698,244	

中学校費

学 校 名	金額[円]	事業テーマ
加計中学校	184,930	高い志を持ち、地域に貢献し、主体的に生きる生徒の育成 (マナー講座、Nコン合唱指導謝金等)
安芸太田 中学校	69,978	未来を創る人づくり 生徒が主体となって輝く教育の創造 (キャリア教育、スキー教室講師代等)
合 計(b)	254,908	

- その他補助金

- ① 事業の目的・内容

町内小中学校が行う、合同修学旅行等の費用へ補助を行った。
英語検定料補助により、全生徒に英語検定に挑戦する機会を与えた。
自転車通学を行う生徒に対し、遠距離通学補助を行った。
また、中学校において各種大会への参加について補助を行った。

- ② 事業の成果

町内小中学校で合同修学旅行を実施することができ、学校間の児童生徒が交流を深め、団体行動による社会性の育成と同世代同士のコミュニケーション育成につながった。

平成 29 年度から行っている英語検定料補助により、全生徒に英語検定に挑戦する機会を設けることができている。

中学校では駅伝大会、スキーの全国大会等への参加補助により、日ごろの成果を発揮し他地域の生徒と交流する機会となり、スポーツ大会への意欲を図れた。

名 称		金額[円]	備 考
小学校	小学校修学旅行補助金(山口方面)	421, 167	@12, 000×33 人 他
小学校計(c)		421, 167	
中学校	中学校修学旅行補助金 (東京都・千葉県方面)	559, 254	@18, 000×28 人 他
	遠距離通学費補助金	62, 300	加計中 5 人(下期 3 人) (30, 100 円) 安芸太田中 6 人(32, 200 円)
	英語検定料補助金	254, 677	加計中 42 名分(127, 237 円) 安芸太田中 44 名分(127, 440 円)
	第 84 回駅伝大会	5, 850	大会参加者 9 名分 (安芸太田中)
	第 31 回広島県中学校英語暗唱・ 弁論大会	2, 000	大会参加者 1 名・1 グループ分 (安芸太田中)
	第 55 回中学校スキー選手権大会 第 61 回全国中学校スキー大会	132, 860	大会参加者 1 名分 (安芸太田中)
中学校計(d)		1, 016, 941	
小学校費補助金合計(a)+(c)		1, 119, 411	
中学校費補助金合計(b)+(d)		1, 271, 849	

◆評価

事業の 評 価	必要性(町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか)			
	☒ 増加	☐ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか)			
	☒ 十分寄与する	☐ 概ね寄与する	☐ あまり寄与していない	☐ できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
	目標達成度(計画どおりに目標を達成できたか)			
	☒ 十分できている	☐ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
備 考				

外部評価	A	評価委員意見	市町によっては各種補助のない場合もあり、本町においては保護者の負担軽減につながり効果のある事業です。
事業の方向性	☐ さらに重点化する ☒ 現状のまま継続する ☐ 見直しのうえ、継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 単年度で終了		

(2) 小学校就学援助事業・中学校就学援助事業

① 事業の目的・内容

経済的理由によって就学困難と認められる学齢児童生徒の保護者に対して、国の制度に則り、学用品や給食費など必要な援助を行った。

② 事業の成果

援助が必要な児童生徒に対して、経済的負担を軽減することができた。

③ 歳出決算額

☐ 準要保護児童生徒就学援助費に係る支給状況 (令和5年4月～令和6年3月)

区 分	支 給 額 [円]			備 考
	小学校	中学校	計	
学用品費等	439,044	547,930	986,974	
修学旅行費	68,720	134,214	202,934	
校外活動費	6,360	3,910	10,270	
新入学学用品費	69,060	300,000	369,060	
給食費	1,463,624	1,281,732	2,745,356	
医療費	2,970	0	2,970	
P T A 会費	76,400	71,800	148,200	
新入学用品入学前支給	378,420	180,000	396,420	
計(f)	2,504,598	2,519,586	5,024,184	

☐ ※就学援助対象者の割合 小学校 18%、中学校 19%

☐ 特別支援就学奨励費補助金に係る支給状況 (令和5年4月～令和6年3月)

区 分	支 給 額 [円]			備 考
	小学校	中学校	計	
学用品費等	27,800	0	27,800	国庫補助額 小・中学校 31,000 円
修学旅行費	6,872	0	6,872	
校外活動費等	540	0	540	
新入学学用品費	0	0	0	
給食費	97,020	0	97,020	
医療費	0	0	0	
計(g)	132,232	0	132,232	
扶助費合計(f)+(g)	2,636,830	2,519,586	5,156,416	

◆評価

事業の 評 価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか）			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			
	☒ 十分寄与する	☐ 概ね寄与する	☐ あまり寄与していない	☐ できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
	☒ 十分できている	☐ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
	目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
備 考				
外部評価	A	評価委員意見	児童生徒の学習活動を援助し、保障することは必要です。	
事業の 方向性	☐ さらに重点化する ☒ 現状のまま継続する ☐ 見直しのうえ、継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 単年度で終了			

6. 社会教育費

（１）社会教育総務管理事業

① 事業の目的・内容

社会教育の推進を図るため、各種団体への負担金・補助金を支払う。

社会教育関係負担金の内訳

名 称	金額[円]
広島県社会教育委員連絡協議会会費	23,000
けんみん文化祭ひろしま'23 開催負担金	100,000
広島県公民館連合会負担金	76,900
第45回全国公民館研究集会広島県大会参加負担金	18,000
合 計	217,900

社会教育関係補助金の内訳

名 称	金額[円]
安芸太田町女性連合会事業補助金	1,170,000
安芸太田町子ども会連合会事業補助金	250,000
安芸太田町 PTA 連合会事業補助金	150,000
青少年育成安芸太田町民会議事業補助金	473,000
安芸太田町文化団体連合会事業補助金	300,000
合 計	2,343,000

② 事業の成果と課題

各種団体ともにコロナ禍での活動を模索され、徐々に可能な事業を実施されていたが、各団体とも会員数が減少しており、今後の団体の持続性について課題があり、検討していく必要がある。

③ 歳出決算額 6,233,679 円

◆評価

事業の 評 価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか）			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			
	☐ 十分寄与する	☒ 概ね寄与する	☐ あまり寄与していない	☐ できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
	目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
備 考				
外部評価	B	評価委員意見	会員数は減っていますが、各団体が努力されており、団体への活動の維持・充実のため適切な補助交付は必要です。	
事業の 方向性	☐ さらに重点化する ☒ 現状のまま継続する ☐ 見直しのうえ、継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 単年度で終了			

(2) 社会教育施設管理事業

① 事業の目的・内容

社会教育施設の運営維持のため、以下の施設について保守・整備・修繕を行う。

施設名	金額[円]	備 考
戸河内ふれあいセンター (体育館を含む)	8,613,597	報酬・需用費・委託料 ほか
筒賀公民館	483,942	光熱水費・通信運搬費 ほか
筒賀公民館東区分館	95,378	消耗品・電話料・施設管理委託料 ほか
温井文化センター	184,530	施設管理・浄化槽管理委託 ほか
香南文化センター	314,000	指定管理・建物共済
川・森・文化・交流センター	20,985,436	報酬・需用費・委託料 ほか

② 事業の成果と課題

施設の管理について、各施設とも老朽化による修繕の増加が今後とも予想され、不具合箇所を適切な補修を行なうことで対応している。

③ 歳出決算額 33,117,710 円

(3) 文化財保護管理事業

① 事業の目的・内容

指定文化財を含め貴重な財産である文化財の保存維持を図るとともに、郷土の歴史を研究している団体の活動を支援する。

種 別	件 数
国指定	2
国登録	2
県指定	14
町指定	37

・安芸太田町郷土史研究会事業補助金 181,000 円

② 事業の成果と課題

文化財保護審議会を開催し、文化財の保存及び活用に関する事項を審議していただいた。文化財の価値を損なうことなく後世に継承していく「保存」、そして地域においてより多くの人々に対して公開し、鑑賞してもらい、親しんでもらう「活用」について、今後より検討する必要がある。

③ 歳出決算額 405,217 円

◆評価

事業の 評 価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか）			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			
	☐ 十分寄与する	☒ 概ね寄与する	☐ あまり寄与していない	☐ できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
	目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
備 考				
外部評価	B	評価委員意見	文化財の担い手をどう育てるかは大きな課題だと思います。デジタル資産として残すなどの工夫が必要です。	
事業の 方向性	☐ さらに重点化する ☐ 現状のまま継続する ☒ 見直しのうえ、継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 単年度で終了			

(4) 生涯学習推進事業

当事業の歳出決算額は1,792,618円である。以下に主要な項目について述べる。

- ・地域生涯学習センター（小学校廃校地域対象）

① 事業の目的・内容

廃校となった小学校区を対象に地域生涯学習センターを開設した。

各地域の団体と連携し、講座や教室、スポーツ大会の開催、地域情報の提供等を実施し、地域の活性化を促す。

② 事業の成果と課題

地域生涯学習センターの人員不在となったため、令和5年度から休止。

③ 事業額 0 円

センター名	金額[円]	備 考
二郷地域生涯学習センター	0	報酬
合 計	0	

・安芸太田町二十歳を祝う会

① 事業の目的・内容

新成人の門出を祝福するとともに、大人の仲間入りをしたことによる義務と責任を再確認してもらうための事業として実施している。

また、民法の一部改正により、令和4年4月1日から成年年齢が18歳に引き下げられたため、本町では、18歳の多くが大学等の進学受験や就職といった極めて多忙な時期と重なり、本人だけでなく家族を含め、落ち着いた環境で成人を祝うことが望ましいと判断し、令和5年度以降も20歳を対象に「安芸太田町二十歳を祝う会」として開催しています。

開催日時 令和6年1月7日（日） 11:30～

開催場所 川・森・文化・交流センター やまびこホール

対 象 者 平成15年4月2日～平成16年4月1日生まれ

対象人数 男性 21人 女性 34人 計 55人

【出席者数】 35人 出席率63.6%

内 容 式典、記念行事及び戸河内ウキスキー

記 念 品 「ウキスキーグラス（風炎窯）」

② 事業の成果と課題

令和4年度の成人式でも実施し好評だった「未来へつなぐ“戸河内ウキスキー”」を今回も企画。アトラクションで恩師からのメッセージ映像を会場で流すと町内で過ごした学校時代を懐かしむ様子が伺え、さらに中学校の時にお世話になった恩師も直接お祝いに駆けつけていただくなど終始和やかな会となった。

③ 事業額 869,404 円

◆評価

事業の 評 価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか）			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			
	☐ 十分寄与する	☒ 概ね寄与する	☐ あまり寄与していない	☐ できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない

	目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
備 考				
外部評価	B	評価委員意見	二十歳という節目を迎えた対象者の将来への希望と郷土愛につながる会を今後も計画してほしいです。	
事業の方向性	☐ さらに重点化する ☒ 現状のまま継続する ☐ 見直しのうえ、継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 単年度で終了			

・公民館講座（そろばん教室）

① 事業の目的・内容

そろばん教室を通して、子どもたちに低下しがちな集中力、忍耐力、積極性を養うことを目的に、隔月1回の検定試験を実施し、昇級目指して努力している。

日 時 毎週火曜日 午後6時から7時まで

講 師 社団法人 全国珠算教育連盟 広島県支部 栗栖貞文

場 所 川・森・文化・交流センター

受講生 16人

② 事業の成果と課題

毎月検定を行うことにより、よりレベルを上げていくというチャレンジ精神が養われている。

③ 事業額

歳入（受講料） 253,500円

歳出（講師謝礼）287,000円 @7,000円/回×41回

・カルチャー教室

① 事業の目的・内容

都市部では様々なカルチャー講座が実施され、意欲のある人が参加している。しかし安芸太田町では、意欲がある人がいても、交通手段等の事情により受講することが難しい。

そこで、町民の文化に対する意識向上や生きがいづくり日常の充実を図ることを目的に、平成23年度より町が講師を招へいし、町民に対し安価で受講できるカルチャー講座を開講しているが、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、自粛要請が徐々に緩和されたことや住民からの要望により「移動型スマホ教室」講座を企画課と合同で開講するとともに、「パソコン教室」も開催した。

② 事業の成果と課題

「移動型スマホ教室」では、スマートフォンの基本操作等の入門講座を町内4会場（安芸太田町役場前広場、安芸太田病院、加計ショッピングセンター、道の駅来夢とごうち）

で行い、21 人の参加があり、「パソコン教室」では、パソコンの基本操作や表計算、インターネットの活用方法の入門講座を川・森・文化・交流センターで4日間行い、35 人の参加があり、いずれも参加者からは好評であった。

今後も町民のニーズを把握し、事業を実施していきたい。

◆評価

事業の 評 価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか）			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			
	☐ 十分寄与する	☒ 概ね寄与する	☐ あまり寄与していない	☐ できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
	目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
備 考				
外部評価	B	評価委員意見	文化的な楽しみが享受できる場合は大人も子供も必要です。特に、幅広く大人の学習機会の提供を考えていただきたいと思います。	
事業の 方向性	☐ さらに重点化する ☐ 現状のまま継続する ☒ 見直しのうえ、継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 単年度で終了			

・ 芸術文化推進事業

① 事業の目的・内容

質の高い芸術文化に触れてもらうことにより、町民の芸術文化感覚を養う。

また、文化団体連合会の事務局を教育委員会内に置き、町民の芸術文化活動を発表する場を設けることにより、町民の日々の生きがいをづくりを支援する。

② 事業の成果と課題

安芸太田町文化芸術フェスティバルを開催し、書道や美術などの作品を数多く出展され、ステージでは多くの団体等の発表があり、多くの方の来場があった。

以前に比べると高齢化等により加盟団体数も微減しており、各種団体の活性化を図ることが今後の課題である。

◆評価

事業の 評 価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか）			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			
	☐ 十分寄与する	☒ 概ね寄与する	☐ あまり寄与していない	☐ できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない

	目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）			
	☐ 十分できている	☐ できている	☒ あまりできていない	☐ できていない
備 考				
外部評価	B	評価委員意見	児童生徒及び町民が質の高い芸術文化に出会える場を提供することも検討してほしいです。	
事業の方向性	☐ さらに重点化する ☐ 現状のまま継続する ☒ 見直しのうえ、継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 単年度で終了			

・ 人権教育関係

① 事業の目的・内容

人権フェスタの開催

各団体・機関が実施している人権イベントの連携と交流のネットワークを図り、お互いの活動を紹介し合い、情報を共有し、人的な交流を深め合うことを大切にするため、平成20年度から実施している。

日時 令和5年12月16日（土） 10：30～15：00

場所 川・森・文化・交流センター やまびこホール

・ 権利擁護研修会

講師：吉益伸幸 演題：いざというとき、権利・財産を守る手段を知ろう

・ 人権講演会

講師：土居和子 演題：ヤングケアラーと呼ばれる子ども達の思い

・ 人権展：町内小学6年生の人権標語展示(町内小・中・高等学校、町内企業所等示)

② 事業の成果と課題

人権週間・障害者週間と合わせ、令和5年度で16回目となる「人権フェスタ」を開催し、町内介護福祉事業所による体験・展示・販売コーナーを設け、多くの参加があった。

今後も「住んでいて良かった」「人権が尊重されるまち」と実感できるよう人権教育・啓発活動を行っていく。

③ 事業額 148,501 円

◆評価

事業の 評 価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか）			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			
	☐ 十分寄与する	☒ 概ね寄与する	☐ あまり寄与していない	☐ できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
	目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない

備 考			
外部評価	B	評価委員意見	住民一人一人の人権意識を高めなければならないと思います。人を大切にする町としてできることをみんなで考える場が継続することを希望します。
事業の方向性	☐ さらに重点化する ☒ 現状のまま継続する ☐ 見直しのうえ、継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 単年度で終了		

• 子ども会活動

① 事業の目的・内容

連合会の事務局を教育委員会内に置き、町子ども会連合会としての主催活動を展開し、情報の交換・共有を図る。

② 事業の成果と課題

様々な事業を行う中で地域の子ども会活動を支援し、子どもたちに楽しむ場を提供した。子どもの減少により、子ども会を組織できなくなる地域が増えているが、町子ども会連合会を受け皿にして、町子ども会連合会の主催活動には全ての子どもが参加できる体制をとっている。しかし、全国的な新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、上関町子ども会育成連絡協議会との「漁村交流会」は中止した。

ア 安芸太田町子ども会連合会活動の促進・支援

総会 年1回開催

役員会 年4回開催

イ 漁村交流会

趣旨 海沿いに面する地域に住む町外の子どもたち（山口県熊毛郡上関町）との交流を図るとともに、お互いの子ども会活動の情報を交換しあう中で、更なる活動の活性化を進める。

ウ 親子クリーンハイキング

趣旨 親子でハイキングをすることにより親子の絆を深めるとともに、ハイキングの際、ゴミを拾うなど美化活動を行なうことにより環境保全の意識、ボランティア精神の向上を高める。

日時 令和6年3月17日 参加者 52人（子ども18人、大人34人）

場所 筒賀地域

• PTA活動

① 事業の目的・内容

安芸太田町PTA連合会（以下町P連とする）の事務局を教育委員会内に置き、町P連としての主催活動を促進し情報交換・共有を図るとともに、各学校単位PTA（以下「単P」とする）の活動を支援する。

② 事業の成果と課題

新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策が緩和されたことから、子ども会連合会との共催により、四季の教室やチャレンジコンクール、親子クリーンハイキングを実施。また、テレビ、ゲーム、スマートフォン等の使用をできるだけ減らし、家族のふれあい時間を増やすための「ノーメディアデー」を設定するなど、家庭・学校・地域の連携、協力が図れた。

ア 総会 年1回開催（5月24日）

山県郡PTA連合会実行委員会 年3回開催（オンライン）

県PTA全小・中学校PTA会長研修会参加（6月2日）

第71回日本PTA全国研究大会広島大会・

第53回日本PTA中国ブロック研究大会広島大会（8月25日・26日）

・ 青少年育成町民会議活動

① 事業の目的・内容

町民会議の事務局を教育委員会内に置き、町民会議として主催活動を促進するとともに、情報交換・共有を図る。

② 事業の成果と課題

各種事業を行うことにより関係団体間の連携・情報交換ができ、地域全体で青少年を育んで行くという大きなつながりができた。

ア 青少年育成安芸太田町民会議活動の促進・支援

総会 年1回開催（5月25日）

イ 立志式

趣旨 成長過程にある安芸太田町内中学校2年生を激励するとともに、生徒自らが自立心をもって生きることを促し、心豊かでたくましく生きる生徒の育成を図る。

日時 令和6年2月3日 9時30分～

会場 川・森・文化・交流センター やまびこホール

講師 沖貴雄

対象 町内中学2年生 28人

ウ 第15回あきおおたゲームハイキング

趣旨 町内の自然・文化・歴史を訪ね、地域の方から話を聴き、地域を知るとともに、郷土に誇りを持ち郷土を愛する心を育む。また、多くの仲間との交流を通じて、協力することの大切さを学ぶとともに、友情の和を広げ世代の枠を超えた交流の中で、お互いを理解しあう。

日時 令和6年3月26日 10時～13時00分 参加者 105人

場所 加計地域（雨天により、加計小学校体育館で実施）

◆評価

事業の 評 価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか）			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			
	☐ 十分寄与する	☒ 概ね寄与する	☐ あまり寄与していない	☐ できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
	目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
備 考				
外部評価	B	評価委員意見	健全な子どもの育成に対する取り組みが位置付けられていることに価値があると思います。時勢に応じて取り組み方は変化してよいと思います。	
事業の 方向性	☐ さらに重点化する ☒ 現状のまま継続する ☐ 見直しのうえ、継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 単年度で終了			

(5) 図書館運営事業

① 事業の目的・内容

- ・図書館協議会 開催日時 令和6年2月27日
- ・図書購入状況

	区分	5年度購入	金 額 [円]	備 考 (寄贈含む)
本 館	蔵 書	587 冊	955,835	総冊数 44,927 冊
	雑誌	17 種類	136,656	総冊数 448 冊
筒賀分室	蔵 書	231 冊	245,492	総冊数 10,290 冊
	雑誌	3 種類	17,889	総冊数 219 冊
戸河内分室	蔵 書	176 冊	310,270	総冊数 14,881 冊
	雑誌	9 種類	81,824	総冊数 366 冊
大型絵本・紙芝居		4 点	61,710	蔵書登録 1,097 点
視聴覚		17 点	74,399	総数 852 点

- ・図書館利用状況

ア 開館日数〔本館〕280日,〔筒賀分室〕264日,〔戸河内分室〕268日

イ 貸出し冊数

区 分		本 館	筒賀分室	戸河内分室	移動図書館
貸	一般書	8,217 冊	2,225 冊	2,526 冊	1,381 冊

出し 冊 数	児童書	12,406 冊	3,160 冊	1,804 冊	3,442 冊
	雑 誌	687 冊	36 冊	378 冊	20 冊
	視聴覚	1,280 点	97 点	35 点	0 点
	その他 (外国語図書)	33 冊	1 冊	0 冊	0 冊
	計	22,623 冊	5,519 冊	4,743 冊	4,843 冊

ウ 移動図書館やまびこ号 月 1 回 火・水・木・金曜日に町内 22 箇所を巡回

・利用状況 利用者数 1,023 人

エ 令和 5 年度は司書 2 名体制で巡回活動を行った。

- ・小学校 3 校での絵本の読み聞かせ、中学校 2 校での図書委員会活動支援、読書相談など
- ・保育園、児童センター等 6 か所 絵本の読み聞かせ

② 事業の成果と課題

図書館での読書環境改善や、図書館利用の促進と子どもの読書を推進する取り組みとして、図書館外へ本を送り出す「移動図書館やまびこ号運行」や「司書による巡回活動」、を定例行事等と合わせて展開し、多くの本に出会う機会と情報を提供することで利用増加を図った。令和 4 年度より利用者数及び貸出冊数が増加し、継続して図書活動に回復傾向がみられる。

【参考】実績比較（3 館合計）

令和 4 年度 利用者数 6,300 人 貸出冊数 35,211 冊

令和 5 年度 利用者数 7,667 人 貸出冊数 37,728 冊

③ 歳出決算額 20,457,832 円

◆評価

事業の 評 価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか）			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			
	☐ 十分寄与する	☒ 概ね寄与する	☐ あまり寄与していない	☐ できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
	目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
備 考				
外部評価	B	評価委員意見	移動図書館や学校との連携、読み聞かせの会など精力的に取り組まれ、本が好きな子どもたちになりつつあります。学校の取組ともリンクしてさらに文化の基盤として図書館が位置づくことを期待します。	
事業の 方向性	☐ さらに重点化する ☒ 現状のまま継続する ☐ 見直しのうえ、継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 単年度で終了			

(6) 放課後子ども教室推進事業

① 事業の目的・内容

放課後や長期休業日に小学校の余裕教室等を活用して、子どもたちの安全・安心な活動拠点（居場所）を設ける。

地域の方々の参画を得て、子どもたちと共に勉強やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動等の取り組みを実施することにより、子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する。

区 分		事業の実績内容	
1	子ども教室名	戸河内小学校放課後子ども教室	
2	当該小学校区名	戸河内小学校区	
3	実施場所	安芸太田町立戸河内小学校	
4	実施日数	年間： 235 日	平 日 201 日
			土曜日及び長期休 34 日
5	参加対象者（1日当たり）	対象：小学1年生～小学6年生	平均人数： 10 人（平日）
区 分		事業の実績内容	
1	子ども教室名	修道放課後子ども教室	
2	当該小学校区名	旧修道小学校区	
3	実施場所	修道活性化センター	
4	実施日数	年間： 236 日	平 日 190 日
			土曜日及び長期休 46 日
5	参加対象者（1日当たり）	対象：小学1年生～小学6年生	平均人数： 6 人（平日）

② 事業の成果と課題

小学校の空き教室等を利用し、安全安心な居場所として学習や交流事業等を実施。修道活性化センター、戸河内小学校で実施。

児童の放課後の居場所として定着し、家庭支援事業として大きな役割を果たしている。

補助事業	補助事業対象総額 [円]	補助金額 (2/3) [円]
放課後子ども教室推進事業	2,518,000	1,678,000

③ 歳出決算額 3,916,606 円

◆評価

事業の 評 価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか）			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			
	☒ 十分寄与する	☐ 概ね寄与する	☐ あまり寄与していない	☐ できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
	目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない

備 考			
外部評価	B	評価委員意見	学童期の子どもたちの居場所として欠かせない場ですが、地域の方との交流活動を大切にしていきたいです。
事業の方向性	☐ さらに重点化する ☒ 現状のまま継続する ☐ 見直しのうえ、継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 単年度で終了		

7. 保健体育費

(1) 保健体育総務管理事業

① 事業の目的・内容

- ア スポーツ推進委員報酬 12 人 408,000 円
イ 中国地区スポーツ推進委員研修会（山口県）
ウ 広島県スポーツ推進委員研究大会（7月1日 庄原市）
エ 第64回 全国スポーツ推進委員研究協議会（青森県）
オ 広島県総合マネジメント研修会（9月10日 府中町）
カ 安芸太田町体育協会総会（6月19日）
キ 全国高等学校ライフル射撃競技選手権大会（7月28日～31日）

② 事業の成果と課題

スポーツ推進委員に対し、スキルアップ及び情報共有を図るため、積極的に研修会に参加できるよう調整をした。

「全国高等学校ライフル射撃競技選手権大会」は開閉会式を行わず、大会運営を簡素化するなど新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策を講じて開催した。

安芸太田町スポーツ推進委員協議会の研修を兼ねた「ボッチャ講習会」を1月に開催し、幅広い世代から14人の参加があった。今後もスポーツを通じて、地域や住民が生きがいや生涯スポーツに取り組めるようなメニューができるよう関係機関と図っていきたい。

③ 歳出決算額 3,388,979 円

◆評価

事業の 評 価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか）			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			
	☐ 十分寄与する	☒ 概ね寄与する	☐ あまり寄与していない	☐ できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
	目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
備 考				

外部評価	B	評価委員意見	健康寿命を延ばすためにも、若年層から体を動かす習慣を身につけることが必要で、その活動の場として大切だと思います。
事業の方向性	☐ さらに重点化する ☒ 現状のまま継続する ☐ 見直しのうえ、継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 単年度で終了		

(2) 体育施設管理事業

① 事業の目的・内容

町内の体育施設の維持管理、修繕等を行う。

② 事業の成果と課題

体育施設は老朽化しており、年々、修繕費等の経費が増大している。

③ 歳出決算額 27,227,382 円

主な歳出の内訳

施 設	設置場所	金額[円]	備 考
体育施設	加計体育館	11,576,041	指定管理委託料、建物共済等
	修道活性化センター	2,455,683	管理委託料 保守点検・維持管理等
	津浪体育館 (津浪スポーツ広場も含む)	215,549	AED レンタル 管理委託料、水道等
スポーツ広場	見入ヶ崎スポーツ広場	184,426	管理委託料、水道等
	温井スポーツ広場	51,654	管理委託料、電気代
	松原スポーツ広場	30,000	管理委託料
	至誠スポーツ広場	14,340	電気代
	筒賀ふれあいスポーツ広場	251,038	電気・水道代、管理委託料等
	筒賀多目的スポーツ広場	145,107	電気代等
	修道スポーツ広場	74,556	電気代、管理委託料等
	坂根スポーツ広場	664,789	管理委託料、保守点検、修繕等
	殿賀スポーツ広場	159,050	管理委託料、電気代等
	杉の泊スポーツ広場	30,000	管理委託料
	筒賀ゲートボール場	5,730	電気代
学校体育施設	加計小学校	92,546	管理委託料、夜間照明
	筒賀小学校	201,896	夜間照明
	上殿小学校	37,169	夜間照明
	加計中学校	155,556	夜間照明
その他	旧戸河内中学校 他	286,907	夜間照明

町内プール	加計・戸河内・筒賀・上殿・ 修道・温井	10,052,470	報酬、管理委託料、保守点 検・維持管理・水質検査、AED レンタル等
合 計		26,684,507	

ア 加計体育館利用状況

年間利用状況

利用日数[日]	利用件数[件]	利用者延べ人数[人]
242	509	6,291

種目別利用状況

種 目	利用団体 [団体]	利用件数 [件]	利用者延べ人数 [人]	利用料金 [円]
バレーボール（部活含）	15	205	2,145	173,250
ビーチボールバレー	1	70	796	61,600
バドミントン	9	72	606	129,855
卓球（部活含）	5	52	435	66,880
テニス（部活）	3	39	262	8,910
フットサル	1	39	324	56,430
サッカー	1	3	120	0
その他	13	29	1,603	233,750
合 計	48	509	6,291	730,675

イ 戸河内ふれあいセンター利用状況

年間利用状況

メイプルホール			アリーナ		
利用日数 [日]	利用件数 [件]	利用者延べ 人数[人]	利用日数 [日]	利用件数 [件]	利用者延べ 人数[人]
41	51	3,157	196	300	5,623

種目別利用状況

種 目	利用団体 [団体]	利用件数 [件]	利用者延べ人数 [人]	利用料金 [円]
バレーボール	5	5	48	9,000
ビーチボールバレー	1	27	173	14,500
ソフトバレーボール	1	35	206	17,000
バドミントン	4	7	278	113,120
卓 球	3	51	447	27,000
剣 道	2	40	275	33,500

その他	26	135	4,196	273,580
小 計	42	300	5,623	487,700
メイプルホール	27	51	3,157	425,405
(冷暖房)				57,570
楽屋	13	21	110	51,530
(冷暖房)				4,560
ピアノ、音響等				71,340
ロビー	1	1	0	0
小 計	41	73	3,267	610,405
合 計	83	373	8,890	1,098,105

(3) 社会体育振興事業

① 事業の目的・内容

ア 第11回安芸太田町民グラウンド・ゴルフ大会

10月29日 深入山グラウンド・ゴルフ場 52人参加

② 事業の成果と課題

グラウンド・ゴルフ大会は小学生の参加もあり、幅広い交流となった。今後も住民ニーズを把握しながら、スポーツ振興に資する住民の活動を支援する必要がある。

③ 歳出決算額 106,374円

◆評価

事業の 評 価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか）			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			
	☐ 十分寄与する	☒ 概ね寄与する	☐ あまり寄与していない	☐ できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
	☐ 十分できている	☐ できている	☒ あまりできていない	☐ できていない
	目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
備 考				
外部評価	B	評価委員意見	人口が少なくなり、高齢化・少子化の中で、幅広い世代が参加したくなるような選択肢を広げた事業として企画していただきたいです。	
事業の 方向性	☐ さらに重点化する ☐ 現状のまま継続する ☒ 見直しのうえ、継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 単年度で終了			

8. 共同調理場費

(1) 加計共同調理場運営事業・筒賀共同調理場運営事業

① 事業の目的・内容

2つの学校給食共同調理場から、小学校、中学校及び保育所、認定こども園へ、安心して安全な完全給食を提供する。

② 事業の成果と課題

加計・筒賀の両調理場の栄養士が連携をし、調理員の衛生面の指導を徹底しながら、産直市や農家と連携し地元の食材を積極的に給食に取り入れた豊かな献立作りを行っている。

加計調理場では、調理業務と運搬業務を委託化した。業者と継続した連携をとり、これまでと変わらず、安心安全な給食を提供している。

③ 歳出決算額

加計共同調理場運営事業 57,998,279 円

筒賀共同調理場運営事業 18,969,725 円

加計学校給食共同調理場

(令和5年5月1日現在、単位：人)

職 員	場長（兼任） 1 人、栄養士 1 人、担当 1 人 計 3 人 調理員・運転手（委託）			
学 校 給 食（職員数は臨時・非常勤含む）				
小学校	児童数	職員数	合 計	・ 児童数 160 人 ・ 生徒数 47 人 ・ 職員数 39 人 <u>計 246 人</u>
戸河内	54	9	63	
加 計	106	16	122	
中学校	生徒数	職員数	合 計	
加 計	47	14	61	
保育所・認定こども園（職員数は臨時・非常勤含む）				
保育所	3 歳 児 未 満	3 歳 児 以 上	職員数	・ 3 歳児未満 8 人 ・ 3 歳児以上 37 人 ・ 職員数 18 人 <u>計 63 人</u>
修 道	0	6	4	
認定こども園	3 歳 児 未 満	3 歳 児 以 上	職員数	
あさひ	8	31	14	

筒賀学校給食共同調理場

職 員	場長（兼任） 1 人、栄養士 1 人（兼任：筒賀小学校栄養教諭） 調理員 正職 1 人、臨時 3 人（半日勤務 1 人）、運転手（臨時） 1 人 計 7 人			
学 校 給 食（職員は臨時・非常勤含む）				
小学校	児童数	職員数	合 計	・児童数 48 人 ・生徒数 50 人 ・職員数 27 人 <u>計 125 人</u>
筒 賀	48	12	60	
中学校	生徒数	職員数	合 計	
安芸太田	50	15	65	

保育所（職員数は臨時・非常勤含む）				
保育所	3 歳 児 未 満	3 歳 児 以 上	職 員 数	
筒賀	3	8	7	・ 3 歳児未満 3 人 ・ 3 歳児以上 8 人 ・ 職員数 7 人 <u>計 18 人</u>

学校給食費徴収状況

	年度	調定額 [円]	収入額 [円]	収入未済額 [円]	未納数 (件)
現年度分	R5 年度	21,640,293	21,603,160	37,133	9
過年度分	H27 年度	9,800	0	9,800	2
	計	9,800	0	9,800	2

◆評価

事業の 評 価	必要性（町民のニーズに変化があるか。事業を行う必要あるか）			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性（施策や運営方針等目的の実現に寄与しているか）			
	☐ 十分寄与する	☒ 概ね寄与する	☐ あまり寄与していない	☐ できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）			
	☐ 十分できている	☐ できている	☒ あまりできていない	☐ できていない
	目標達成度（計画どおりに目標を達成できたか）			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
備 考				
外部評価	B	評価委員意見	物価高騰という厳しい状況ではありますが、今後も 安心安全な給食の提供を行っていただきたいです。	
事業の 方向性	☐ さらに重点化する ☒ 現状のまま継続する ☐ 見直しのうえ、継続する ☐ 事業の縮小を検討する ☐ 休止、廃止を検討する ☐ 単年度で終了			